

磐田原台地西縁の遺跡

- ◆国指定史跡 ^{ちよう し づか こ ふん} 銚子塚古墳附 ^{こ ちよう し づか こ ふん} 小銚子塚古墳
- ◆県指定史跡 ^{よね づか こ ふん ぐん} 米塚古墳群
- ◆県指定史跡 ^{ちよう じゃ や しき い せき} 長者屋敷遺跡



北から見る磐田原台地西部 (平成13年2月撮影)

ちょう し づか こ ふん こ ちょう し づか こ ふん 銚子塚古墳・小銚子塚古墳 (国史跡)



(昭和58年撮影 右が北)



銚子塚古墳・小銚子塚古墳 (関西大学考古学研究室測量図に一部加筆)

銚子塚古墳・小銚子塚古墳は、天竜川を望む磐田原台地の西縁にあり、二つの古墳は隣接しています。

両古墳ともに正式な発掘調査は行われていませんが、関西大学などによって測量調査が行われています。いずれの古墳も、古墳時代前期の4世紀後半ごろに造られたと想定されています。

銚子塚古墳

全長 108mの前方後円墳で静岡県内で第3位の規模を誇ります。後円部は直径 60m、高さ 8 m、前方部は長さ 50m、高さ 4.5mを測ります。古墳の周囲には幅約 10mの周堀がめぐっています。明治 13 年に中心部分が地元の有志により発掘され、その覚書から遺体が葬られた部分は粘土と石を積み上げた施設であったと考えられています。埋葬施設内からは三角縁三神三獣鏡 1 面、巴形銅器 1 点、銅鏃 2 点が出土しています。



銚子塚古墳出土の三角縁神獣鏡
 鏡のツマミ(鈕)の周囲に神と獣が3体ずつ配置され、その外側に帯状に文様がめぐり「日」「月」の文字が3個ずつ配置され、その間に獣の像が浮き彫りになっています。
 (東京国立博物館所蔵 Image:TNM Image Archives)

小銚子塚古墳

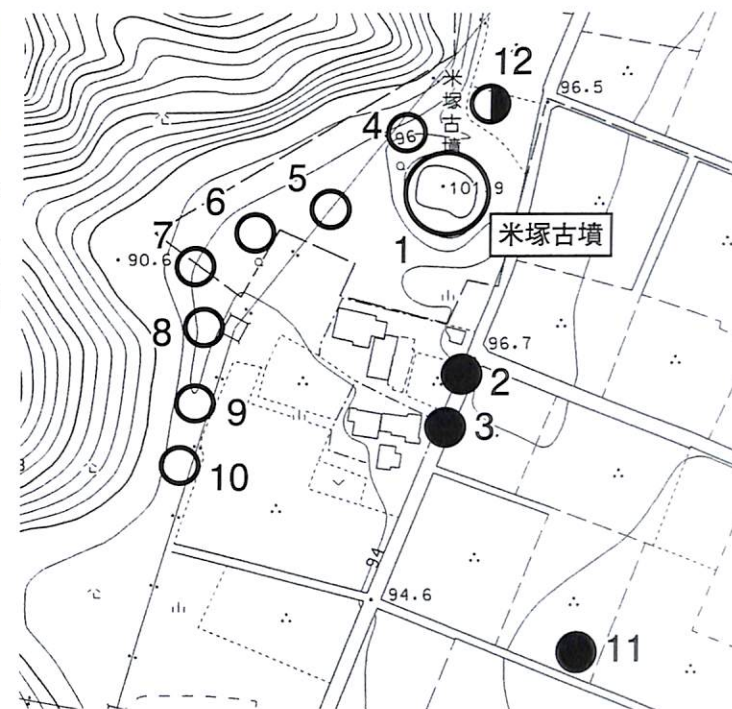
全長 46mを測り、前方部を東に向ける前方後方墳です。静岡県内で確実に前方後方墳として知られている5例のうちの一つです。北側から東側にかけ幅約 10mの周堀が見られ、銚子塚古墳の周堀と一部が重複します。古墳の位置から銚子塚古墳より先に造られているとする説がありますが、発掘調査が行われておらず、詳細は不明です。

銚子塚古墳・小銚子塚古墳に葬られた人物は？

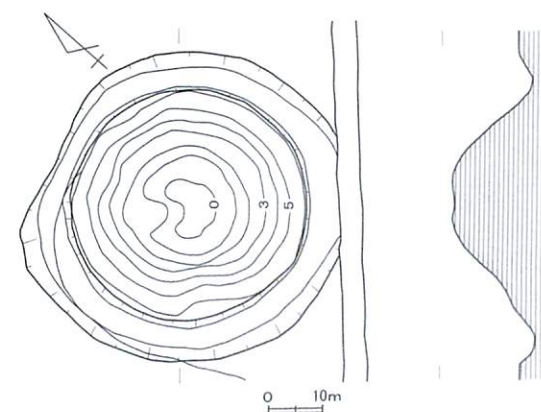
天竜川を見下ろす場所に造られたこの二つの古墳には、どんな人物が葬られたのでしょうか。銚子塚古墳は出土品に有力者しか持てない三角縁神獣鏡があることや規模の大きさから、天竜川平野を治めるこの地域の王だったと考えられます。小銚子塚古墳にも、銚子塚古墳と同じくらいの力を持つ人物が葬られた可能性が考えられます。

よね づか こ ふん ぐん 米塚古墳群 (県史跡)

米塚古墳群は、12 基の円墳で構成される古墳群です。その中心的な古墳が米塚古墳で、直径 40m、高さ 6mで、幅 7mの周堀を巡らせ、2段に分けて盛土されています。また、墳丘上に礫が見られることから、葺石を施された可能性があります。発掘調査が行われていないため、古墳内部の構造は不明ですが、古墳時代中期の5世紀に造られたと考えられています。
 ※米塚 2 号墳と 3 号墳は昭和 44 年に発掘調査を行い消滅、11 号墳も消滅しています。



米塚古墳 (南東から)

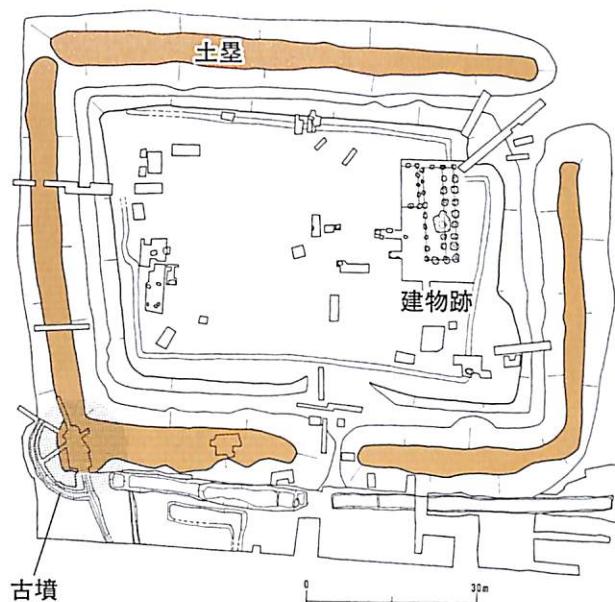


米塚古墳墳丘図

ちやう じゃ や しき い せき
長者屋敷遺跡 (県史跡)

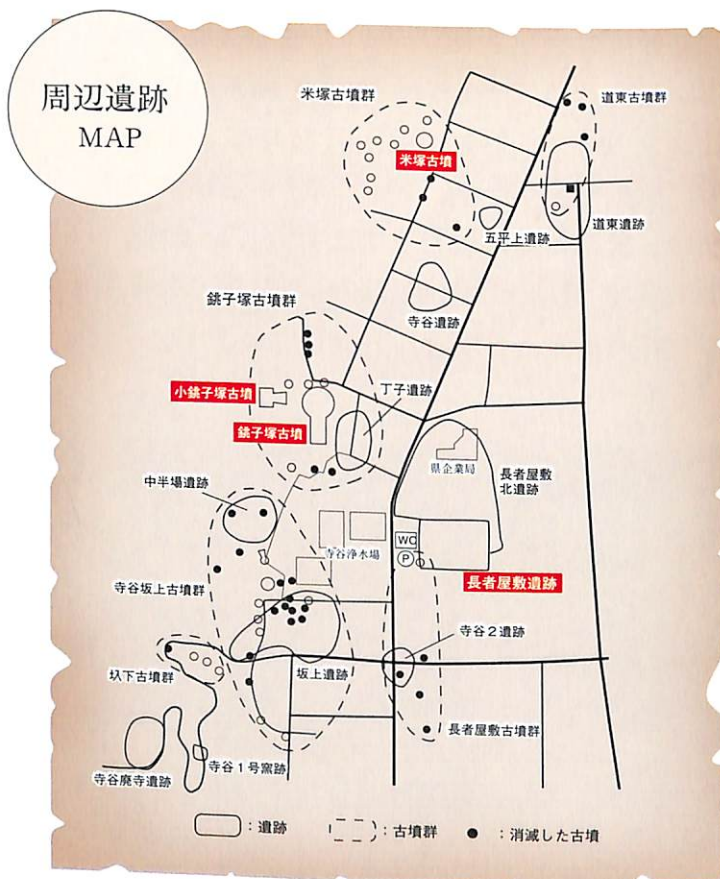


南から



遺跡全体図

この地に土塁が残っていることは、地元では古くから知られていました。昭和44年に部分的な発掘調査が行われ、土塁の規模が東西約100m、南北約80mの長方形で、高さは3mを測ること、南側の土塁が二重に築かれていたことがわかりました。土塁の南西隅は古墳の墳丘をとりこんで造られています。土塁内側では南北16.5m、東西5.5mを測る大規模な掘立柱建物跡など複数の建物跡が検出され、ここには土塁に囲まれた奈良時代の役所的な施設か豪族の屋敷跡が存在したと考えられています。



アクセス

バス：磐田駅2番のりば 磐田市立病院経由大藤神増原行き「銚子塚口」下車 所要30分 徒歩10分
 車：東名高速道路 遠州豊田PAスマートICより10分